

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470101829		
法人名	社会福祉法人 あと会		
事業所名	グループホーム くにくさの家		
所在地 (電話番号)	広島市安芸区阿戸町2941-1 (電話) 082-820-8088		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(20年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 4 月 11 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	14,000円 + 実費
敷金	有() 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	マツダ病院、安芸市民病院、横山外科胃腸科、あとクリニック、井原第一歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲を田畑に囲まれ、自然豊かな地にある当ホームは、法人の理念『ご利用者の方々が日々の生活の中に「喜び」を持って、「豊かな」「やすらぎ」を感じて生きていただきたいと願う「3Yの心」』のもと、利用者は家庭的な環境の中でゆったりと暮らしている。職員全員が常に理念を念頭におき、利用者には「ここが一番いいよ」と言ってもらえるよう、日々のケアにあたっている。職員同士のコミュニケーションもうまく取れ、全職員で全利用者のケアにあたっている。また「看取り介護」に対しても「家族として看取りたい」という思いで最善のケアを行なえる体制がある。利用者は職員も含めて全員が家族のような一体感があり、一人ひとりが残存能力を活かしながら「第二の家」での生活を表情豊かに送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、全員参加による自己評価への取り組みを改善課題として取り上げたが、前向きな取り組みがなされ、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は全職員参加による話し合いが行なわれ、サービスの質の向上に向けて、積極的に取り組む姿勢がうかがえる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に1回運営推進会議を開催しており、メンバーは社会福祉協議会会長・町内会長・民生委員・住民代表・家族代表・利用者代表・地域包括支援センター職員で構成されている。 ホームの行事や近況報告、自己評価・外部評価の報告を行なうなかで、利用者の散歩の話から遊歩道の整備が行なわれた。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご意見箱の設置・年2回の家族アンケートを行ない、苦情や要望があればホーム内、あるいは法人の苦情委員会で一つ一つ解決し、運営に反映させている。また、重要事項説明書に公的機関への相談窓口を明記している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 積極的に自治会活動に参加し、地域の人々との交流に努めている。中学生との交流もある。近所の方がホームの畑の世話やホーム周辺の草取りをしてくれたり、自家製の野菜を届けてくれたりするというように、地域の方々もホームのことをあたたかく見守っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「3Yの心(やすらぎ、よろこび、豊かさ)」を基本理念としている。家庭的な環境の下で残存能力の活用と自尊心の回復を図り、利用者がその人らしさを保ちながら地域の中で生活が継続できるよう取り組んでいる。		法人の理念は奥が深く、職員一人ひとりの受けとめ方も解釈のしかたもそれぞれ違っている。各事業所の実情に沿った独自の特徴を活かしたものがあってもよいのではないかと思われる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	重要事項説明書やパンフレットに理念を明記し、ホーム内に掲示している。管理者と職員は定期的に勉強会を開き、理念を共有している。職員は各自、常に理念を心にとめて日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動(新年会・総会・町内清掃)に積極的に参加し、地域の人々との交流に努めている。また、中学生との交流もあり、「しばもち作り」や「中学生と高齢者との意見交換」などを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の課題は自己評価を全職員で取り組むことだった。今回の自己評価は全職員で行ない、サービスの質の向上に努めている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施している。出席者は阿戸町社会福祉協議会会長・町内会長・民生委員・住民代表・家族代表・利用者代表・地域包括支援センター職員で構成されている。主にホームの近況報告を行い、出席者からの意見を取り入れている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとの交流を持っている。福祉担当者研修に参加し、市と連携しサービスの向上に取り組んでいる。 市民セミナーのグループホーム研修会、グループホーム見学会を行なった。講師の派遣もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを伝えている。また、毎月、担当者が一人ひとりに合わせた写真付きの便りを書き、暮らしぶり、健康状態、金銭管理などの報告を郵送している。必要があれば個別に電話連絡も行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情や相談について詳しく記載している。相談窓口はホームにも、外部に対してもできるようになっている。年2回家族へアンケート用紙を送付して意見を引きだしており、課題に対してはホーム内でミーティングをしたり法人内の苦情委員会で検討し、運営に反映させている。		家族アンケートで「苦情および要望」を受けたらきちんと対処方法を出しているの、その結果報告として面会に来た家族にオープンにされることが望まれる。(例えば、玄関近くの壁に貼り出すなど。)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員体制を兼務から固定にし、馴染みの関係づくりに努めている。 滅多に異動はないが、異動があった場合は引継ぎを十分行ない、職員同士でフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的実施され、全職員が研修を受ける機会が確保されている。 法人外の研修にも積極的に参加し、研修報告書を作成して他の職員も閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会に参加し、情報交換や相互研修を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の意見や要望も取り入れて、事前見学や家族に泊まってもらうなどして無理をせず利用者のペースに合わせながら、徐々に馴染みの関係を築くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という意識を持たないで、利用者と同じ目線に立ってお互いに共感できる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コンタクトマン制度を取り入れ、利用者から直接話を聞いて、希望に沿った生活ができるよう希望や意向の把握に努めている。家族の協力も得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望に沿った支援が提供できるように、アセスメント・フローチャートを活用して、利用者主体の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6か月毎)及び状態の変化時に本人・家族と話し合いを行ない、見直しが実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設の24時間医療連携サービス、通院・一時帰宅・外出・家族の宿泊など、可能な限り柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人ドクターが週1～2回、回診を行ない、本人・家族の希望する医療機関への受診支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期における『看取り介護に関する指針』を定めている。法人の医療機関のバックアップ体制が整っているため、本人の状況・家族・医師と話し合ったうえで、最善のケアができるよう職員全員で取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等で職員の意識向上を徹底しており、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。 個人情報の取り扱いも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。その人に合った暮らしができるよう、起床時間をずらしたり、買物・ドライブ・散歩・染髪・受診などの支援をしている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みを取り入れ、利用者の中で準備や料理のできる人があれば職員と一緒にこなしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態や好みに合わせて、ゆったりとした気持ちで入浴できるよう配慮している。入浴時間も、食後に入浴したい人がいれば希望に沿えるよう、利用者の入りたい時間に入れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月、季節毎の行事が予定され、地域の人と一緒に行事に参加している。 手の体操・詩吟・習字・墨絵・かるた・畑仕事など、生活のはりや喜びとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や気分によって散歩や買い物など戸外へ出られるよう支援している。 遠出のドライブを希望する利用者には、家族に協力してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放して自由に入出入りできるようにしている。事故防止のためドアが開くとチャイムが鳴るようにしている。 夜間は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を行なっている。運営推進会議を通して、近隣住民の方に協力をお願いをしている。 今月予定している防災訓練には、消防署にも参加してもらうことになっている。 法人内に防災委員会があり職員は研修も行なっており、災害時には近隣の法人施設に避難することになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が栄養管理指導をしている。また、真空低温調理法を用いて、活性酸素を抑えた体に優しい調理法を導入している。利用者の状態によってはミキサー食や汁物にとろみをつけて提供している。 水分摂取量は1,500ml/日とし、食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員全員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感あふれる飾りつけや、習字の上手な利用者の作品が飾ってある。リビングは吹き抜けになっており、自然光や風を取り入れられる。リビングからベランダに出ると山や田畑を眺めることができ、季節の移ろいを目にすることができる。リビングとキッチンには床暖房が施されている。畳の間では自由にくつろげるつくりになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には習字の上手な利用者の手書きの表札が付けてある。居室は広く使い慣れた品物を持ち込んで自分らしく過ごせる部屋となっている。スウェーデン製の木製可動式ベッドが一部取り入れられ、見た目がよく、利用者にとっては床ずれしにくく、職員にとっては介護しやすくなっている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	定期的に勉強会を持ち、法人の理念を明確にし、意識付けをしている。又、利用者がその人らしさを保ちながら地域の中で生活が継続できるよう取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	定期的に勉強会を持ち、法人の理念を明確にし、それに基づいてケアにあたっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会・地域推進運営会を通し、認知症を理解してもらうよう努めている。	○	地域との係わりを広げていけるよう今後も努力する。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	時にグループホームでの行事に参加。 日常的な挨拶を大切にしており、気軽に声をかけ合えるようになっている。 畑でとれた野菜を届けてくださることもある。 利用者の話し相手になって頂く事もある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の活動や会合にも積極的に参加している。新年会・総会・町内清掃などにも参加し、地域の人々との交流に努めている。 中学生とのふれあい学習“しばもち作り”や、高齢者との“意見交換”など交流を図っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティアの方による墨絵クラブに、地域の方に呼びかけて参加してもらっている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善に向け、職員の意識を共有し、取り組んでいる。 グループホーム独自の「くにくさの家便り」を毎月発送している。 訪問歯科治療の受け入れや、確実な申し送り、情報伝達ができるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。 会議を通しての意見などを取り入れて、サービス向上に活かしている。 地域との交流の輪が広がってきた。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	包括支援センターとの交流を持っている。 福祉担当者研修に参加。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、対象となる利用者はいないが、勉強会で学ぶ機会はある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に法人全体での勉強会が行なわれ、全職員が必ず出席できるようにしている。グループホームでのミーティングでも職員に意識付けをしている。又、家族との連携も行っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前面接を行い、本人・家族とも十分に話し合い、納得の上で契約をしていただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	法人全体で苦情委員会を設置している。 利用者の意見や不満が話せるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の担当者が、個々に合わせてお便りを書いて（写真付）毎月郵送している。必要があれば、個別で電話連絡をすることもある。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体で苦情委員会を置き、家族等の苦情が発生した際には対応できるよう努めている。 アンケート用紙を定期的に送付して、意見を引き出している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング等で意見交換を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用状況に合わせた職員配置にしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員体制を兼務から固定にし、馴染みの関係づくりに努めている。異動があった場合は職員同士でフォローする等、配慮する。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修を受ける機会を確保している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者との交流会に参加。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員室は設けていないが、くつろげる場所はある。職員同士で話し合える機会を持つようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	年間の目標をあげて、個々に合わせた役割をつくっている。		
----	--	-----------------------------	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	生活歴の情報を家族より得たり、本人の意向も聞き、安心感を持っていただけるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ゆっくり時間をとり、家族の意向や気持ちを受け止めるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス事業所とも連携をとり、必要なサービスが利用できるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	無理をせず利用者に合わせながら、馴染み・信頼関係ができるよう取り組んでいる。家族に泊まってもらったりすることもあつた。		

2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし ながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	利用者と同じ目線に立って、お互いに共感できる関係に 努めている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人から家族をたち切らないよう係わりを多く持っても らい、家族とともに支援できるよう努めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	それぞれの家族関係をよく理解し、必要であれば家族に も助言等の支援を行い、より良い関係になるよう努めて いる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途 切れないよう、支援に努めている。	自宅に連れて帰ったり、受診やドライブ等に行っている。 又、面会に来やすいよう声かけや雰囲気配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同 士が関わり合い、支え合えるように努めている。	性格や認知レベルなどを配慮して、利用者同士が良い関 係になるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切に している。	移られた先への面会や、時には家族様に手紙等を出して いる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望を大切にしている。家族にも協力を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族の方よりの情報提供を、職員全体で把握できるように努めている。	○	その人らしさの居室づくりができるよう、今、取り組んでいる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常生活で一人ひとりを良く見て、その人の持っている可能性を見い出したり、又、無理をしないよう努めている。		

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の求めているものが提供できるようにアセスメント・フローチャートを活用し、介護計画を作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的及び利用者の状況が変化するたびにカンファレンスを開催し、見直しを行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録を重視し、介護計画の見直しに活かしている。帰宅願望の強い方や介護抵抗のある方は、個人記録とは別に対話記録をつけて統一したケアが出来るようにしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体施設職員の協力体制ができています。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域推進会議の構成メンバーになって頂いている。ボランティアの方には毎月入っていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じてサービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在対象者はいない。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	法人D rの定期的な回診。 本人・家族の希望する医療機関の受診の支援も行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医の助言も受けながら、必要であれば入院治療も支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人内の訪問看護と契約しており、健康管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関とも連携しながら、入院した利用者・家族が安心して過ごせるように、又、早期に退院できるよう情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族や医師と常に話し合いを持ちながら、その方針を共有し、最善のケアができるよう取り組んでいる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期を迎えた利用者のために、本人・家族の望むケアを提供できるよう、医師を含むチームとしての支援に取り組んでいる。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	安心して生活できるよう、ケア関係者に情報提供し、サービスが利用できるような支援している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	全職員に徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとりに合わせた声かけや、ゆっくりした時間を持つように努め、利用者の自主性を大事にしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大事にしている。 その人に合った暮らしができるよう、買物、ドライブ、散歩、受診などの支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	衣服は家族が用意されるが、希望する方には買い物に同行する。 美容院に行くことが困難になってきたので、2ヶ月に一度出張カットに来てもらっている。(行ける方には同行している)		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものなどがあれば取り入れるようにし、一緒にできる方とは準備や料理をしている。食事はみんなと一緒に楽しくしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が望めばビールを出している。好みのものも必要に応じて提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンをよく把握し、その人に合わせて誘導し、排泄の自立に向けて支援している。オムツの方には個人に合ったものを利用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の健康状態や好みに合わせて湯加減や入浴時間を決めて、ゆったりとした気持ちで入浴できるよう配慮している。夕食後に希望される方にも対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は活動性を持ち、生活のリズムをつけることを積極的に行い、夕方からはゆっくりくつろぎを持ち、個々に合った睡眠が取れるように配慮している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日中の生活の中で、役割を見つけたり、散歩やドライブ・墨絵など生活に張りや喜びとなるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望のある方は所持し、買い物をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など、利用者の希望や状態によって、戸外に出られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	(遠出) ドライブを希望される利用者には、家族に協力してもらっている。 買い物を希望される利用者には、できる限りで支援している。	○	家族と協力して出かける機会をもっとつくりたい。 (車で景色を見に出かけたり、外での食事会など)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書いたり、電話をかける方にはその支援をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的な雰囲気がかもし出され、居心地の良い環境になるよう工夫している。 面会時間の制限もしておらず、いつでも気軽に訪問して頂けるよう配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を行い、職員の意識統一をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ玄関に施錠している。 日中は開放して自由に出入りできるようにしている。 (事故防止のため、ドアが開くとチャイムが鳴るようにしている。) 今後は利用者の身を守る為に、必要と思う時には施錠も考える。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が束縛感を感じないよう気を配り、見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の能力に合わせて、希望があれば所持してもらい、管理には注意する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりハットの活用をし、日々のケアに活かしている。 勉強会・ミーティングを行い、意識付けをしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	マニュアルをつくり、救急法の勉強会を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の火災訓練を行っている。 地域推進会議を通して、近隣住民の方に協力をお願いをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	本人の望む自由な生活をしていただくために、発生するリスクについても家族に理解して頂けるように説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックを行っている。 異常の早期発見に努め、法人の医療機関と連携し、早期処置に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握し、情報の共有をするよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事に気をつけ（牛乳・ヨーグルト・果物など）摂取している。 水分摂取は1500ml/日を目安としている。 便秘気味の方には便秘薬を使用する。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きの声かけをしている。 一人でできない方には援助をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人内の管理栄養士が栄養管理指導をしている。又、真空低温調理法を用いて、活性酸素を抑えた体に優しい調理法を導入している。 体調・習慣に応じ、調理・盛り付けをしている。 水分摂取量は1500ml/日を目安としている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに沿って、日々予防に努めている。 バルサン使用による害虫駆除。 インフルエンザの予防接種を実行している。	○	マニュアルの更新を委員会で取り組んでいる
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	マニュアルをつくり実行している。 法人全体が真空低温調理法を導入している。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物自体も周囲の環境になじむよう工夫している。 玄関周りも出入しやすいようスロープになっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	建物中央の広くゆったりとした居間・食堂は吹き抜けになっており、自然光や風が入ってくる。 休憩用の6畳敷きの畳の間など、自由にくつろげるような設計や、オープンにした応接間など、居場所づくりの配慮をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同空間の中にソファ・畳コーナー等、自由にくつろげるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた机や思い出の品物など持ち込まれ、それぞれ自分らしく過ごせるようにしている。 (家族へも協力して頂いている)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	随時、換気を行っている。 リビングは床暖房がしてあり、冬場には体に優しい暖かさがある。 各部屋にはエアコンを設置し、温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	グループホームとして設計・建築しており、身体機能への配慮をしている。 炊事が一緒にできるよう、ゆったりとしたキッチンなど工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者の各部屋の入口には本人の書いた名前や墨絵を貼り、部屋を間違えないようにしている。又、トイレや浴室などは利用者が考え、書かれた表示がしてある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	散歩や外気浴に出た時に疲れないためベンチを設置している。又、ベランダも自由に出られるようにしている。家族会の時には庭で焼肉をしました。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目